

(前頁より続く)

A氏；1、2年生の算数をみているが、一人二人、先生の話の聞かなかったり、ちゃんと席に座らない、寝転んだり、書類をさわったり、ノートを出しなさいと言ってもブロックで数を数えたり、持ってきていても出さないなど、うまく先生の言うことを聞けない。先生も手を焼いている。先生から指示が出ないのでどうしたらよいか困っている。支援者としてどうしたらよいか？皆さんの経験をお聞きしたい。

B氏；子供はある時 急に変わる子もいる。少し長い目で見ればよいと思う。先生は一年毎に代るが、おじいちゃんの方が長くいてくれるので良いと言ってくれることもある。普通学級を見ないで、特別支援学級だけ見ていると周りが見えない。いろいろあるが嬉しいこともたくさんありますよ。松本支援リーダー；文部科学省統計では小中学生で約6%の子供が軽度発達障害とされています。また、どの子も自分の良いところを伸ばしたい意欲を持っています。その子の得意なことがどう言う状況だったら頑張れるのかとか、どう言うステップだったらやっていけるのか、細かい視点でその子を見て、それに合わせてその子の発達を促してゆく、そういったことが大事です。(「行動分析の考え方」について大変有益な説明がありました。)

C氏；特別支援では予め子どもの特性を教えてほしい。先生のやり方に沿って対処したいので事前に知りたい。

D氏；ボランティアを受け入れる場合すべきことが示されるべきだ。教育委員会にはボランティアの意見も聞いてほしいと思う。各校バラバラでは、本当の障害児教育につながらない。また、ボランティアと先生が話ができるか、どうパイプをつなげるか、コミュニケーションをふやせるかが重要だ。

E氏；学校側とのコミュニケーションが重要なことはわかるが、時間を見て接することも一つの方法、いろいろ試すとよい。思い切って校長に合う。ダメなら教頭など。子どもに接する方法も俺流でよい。家庭におじいちゃん、おばあちゃんがいる存在を知ってもらう。子どもの様子、算数の場合と国語の場合とでがらりと違う。

F氏；5年間学習支援に関与している、竹の台で地域の“ふれあい”もしている。子供は愛情を持っ

て接すれば答えてくれる。竹の台は地域を挙げて学校と接触がある。親しみを感じている。我々が、どうコーディネートしていくかが重要。今、わ本部として小学校の環境体験学習を取り上げようとしている。学校とのかかわりをもっと増やし、子どもの見守り隊や各種学校支援活動を通じて子どもと付き合ったり、子どもと接することが大切。これから子どもの健全育成に役立つ事業運営に力を入れてゆきたいと考えている。

G氏；昨日、地域の校長先生と昔遊びの話をしたら、だんだん校長さんとコミュニケーションできるようになった。これからは子どもと一緒に遊ぶこともやらないといけない。子どもたちが育ってゆく上で先生も、親も大切だが地域のシニアも何かせねばならない。ゴム飛びとかをやると効果がある。PTAにも昔遊びのことを知らせないといけない。幼稚園に計画表を作り宣伝している。学校の先生にもPRしている。そうしたことで地域のつなぎ役をするのが我々の務めである。

H氏；昔遊びにはいいことがたくさんある。ここにいる皆さんはきっと子どもの時よく遊んだと思う。大いに昔遊びを推進してもらいたい。

大好評！道場小「戦争と平和」授業

(音文 9期)中沢 保夫

昨年11月11日、北区の道場小学校で6年生37名を対象に「戦争と平和 神戸大空襲」の戦争体験授業が開催されました。昔遊び研究会(会長 福祉8期 入江敏行氏)の協力で実施されたこの授業は、子ども達に非常な感銘を与え、後日担任の先生から礼状とともに子どもたちの感想文が寄せられました。その主なものを抜粋して紹介します。

6年女子Aさん

私は戦争のことはイメージだけで知っていたけど、今日お話を聞いて本当の恐ろしさを知りました。戦争が起こる理由が分かって良かったです。理由もなく戦争をするのはおかしいので分かって良かったです。でもやっぱり話し合いが大切と思いました。戦争中の食事は私だったら食べられないと思います。好き嫌いは多いけど、昔と比べるとものすごく贅沢なので極力残さずに、わがままも減らしたいです。お父さんやお母さんがいるだけで幸せなんだなって改めて思いました。戦争なんかしてたのしいのかな。よく考えてみると、殺

(次頁へ続く)